

第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

沿線の地域特性に関して、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した結果は下記に示すとおりである。なお、対象事業実施区域⁽¹⁾を含む市町村⁽²⁾は、方法書と同様とし、長野県内で大鹿村、松川町、豊丘村、喬木村、飯田市、高森町、阿智村、南木曾町の1市3町4村とした。

4-1 地域特性の概要

長野県は、本州の中央部に位置し、北は新潟県、東は埼玉県と群馬県、南は山梨県、静岡県、愛知県、西は岐阜県と富山県の合計8県に接している。一級河川としては、諏訪湖を源とし県中央部を流れる天竜川や県西部を流れる木曾川が南に流れ太平洋に注いでおり、千曲川と犀川の2川が合流して北に流れ信濃川となって日本海に注いでいる。同様に、青木湖の北を源とする姫川も山間部を北流し、日本海に注いでいる。なお、長野県に二級河川はない。

地形は、総称して日本アルプスと呼ばれる標高3,000m級の山々が重なり合い、四方を囲んでいる。これらの山岳は諸河川の源をなしており、県内の平地は諸川の流域にあって、千曲川流域の佐久平と善光寺平、犀川流域の松本平、木曾川流域の木曾谷、天竜川流域の伊那谷、諏訪湖を中心とする諏訪盆地等、およそ6つの地域に分かれている。

県内の総面積は、約13,562km²であり、このうち土地利用基本計画の区分として、都市地域が25.9%、農業地域が34.2%、森林地域が78.1%、自然公園地域が20.6%、自然保全地域が0.1%となっている（重複する地域があり、合計面積が県土の面積とは一致しないため、割合の合計は100%とならない）。

長野県の気候は、全県的に日較差と年較差が海岸地方に比べ大きく、湿度が低い内陸性気候となっている。冬季は北部では季節風の影響で雪の日が多く、中部や南部の平地では空気が乾燥し、晴天が多くなる。また、夏季は海岸地方と同じかそれ以上の暑さとなる。飯田特別地域気象観測所の観測によると、年平均気温が約13℃、月別には約1℃～約25℃で変化し、1月が最も気温が低く、8月が最も気温が高くなる。年間降水量は、約1,800mmであり、国内の年平均降水量と同程度である。月別の降水量は7月が最も多く、次いで6月、5月となっている。一方、降水量が最も少ないのは1月であり、次いで12月、11月となっている。

人口は、平成25年4月現在、約2,121千人であり前年と比較すると約0.6%減少している。市町村別に見ると長野市が約378千人で最も多く、次いで松本市が約242千人、上田市が約158千人となっており、これら3市で県内人口の37%を占めている。

産業別の就業者数は、第3次産業が最も多く約59%、第2次産業が約29%、第1次産業が約10%となっている。第3次産業については、全国平均より就業者の割合が低く、第1次産業及び第2次産業は全国平均に比べて高い割合となっている。

(1) 「対象事業実施区域」：本章のみ「対象事業実施区域」は、方法書と同様に設定して記載した。

(2) 「対象事業実施区域を含む市町村」：地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とし、対象事業実施区域及びその周囲に位置する市町村のデータとした。

長野県内には、中部山岳、上信越高原、秩父多摩甲斐、南アルプスの4つの国立公園、八ヶ岳中信高原、天竜奥三河、妙義荒船佐久高原の3つの国定公園、中央アルプス、御岳、三峰川水系、塩嶺王城、聖山高原、天竜小渋水系の6つの県立自然公園がある。また、自然環境保全法に基づく自然環境保全地域等はないものの、長野県自然環境保全条例に基づき8地域約790haの自然環境保全地域（うち、4地区約30haの野生動植物保護地区）及び36地域約4,045haの郷土環境保全地域が指定されている。また、長野県水環境保全条例に基づき、40地区約3,703haの水道水源保全地区が指定されている。また、都市計画法に基づき、24地区4,192haの風致地区が決定されている。

地域の特性として、フォッサマグナ及び中央構造線による複雑な地形地質に加え、日本海型と太平洋型の両方の気候の影響を受けるという多様な環境条件があることから、長野県は自然環境及び生物多様性が豊かな地域である。

また、平成22年10月に公表された環境省による「国立・国定公園総点検事業」において、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域として、南アルプス国立公園の周辺が拡張候補地に抽出されている。